

甲斐市立竜王中学校 自己評価書

令和4年1月24日（月）作成

校長 「野本眞二」 記述者 職名（教頭）「 河西 修 」

学校教育目標

- ◎ 自ら学ぶ生徒 （知育）
- ◎ さわやかで心豊かな生徒 （徳育）
- ◎ たくましく生きる生徒 （体育）

生徒の努力目標

- 確かな学力は「生きる力」……授業へ真剣に主体的に取り組もう。
- あいさつは「心の交流」……さわやかな挨拶をかわそう。
- 継続は「力」なり……根気よく心身の鍛錬に取り組もう。

- | | |
|---------------|--------------|
| ・自ら学ぶ授業にしよう | ・思いやりの心を育てよう |
| ・学校や仲間のために働こう | ・部活動を活発にしよう |

学校経営方針

(1) 甲斐市教育振興基本計画「創甲斐教育」を具体化した学校教育を推進する。

(2) 学習指導

- ① 一人ひとりの能力や適性を的確に把握して、個に応じる指導法の工夫・改善に努め、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る。（ユニバーサルデザインの視点での授業改善）
- ② 生徒の意欲や体験的な活動を重視し、既習事項を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力の育成に努める。（主体的・対話的で深い学びの実現）
- ③ 教科への興味関心を高め、学習意欲を引き出し、家庭学習に自主的に取り組む生徒を育てる。（スタンバイ学習の推進）

(3) 生徒指導

- ① 規範意識をはぐくみ、基本的な生活習慣の確立を図る。
- ② 生徒一人ひとりを適切に理解し、好ましい人間関係をつくる。
- ③ 学校、家庭、地域、関係機関と密接な連携をとった生徒指導を推進する。
- ④ 問題行動について共通理解を持ち、学校全体として対応する。
- ⑤ 不登校生徒に対する理解を深め、連携を密にし、生徒に寄り添った指導を図る。
- ⑥ いじめの未然防止、早期発見、早期対応に取り組む。

(4) 道徳指導 …「道徳的価値の自覚を促し、道徳的実践力を育てる」

- ① 規範意識としなやかな心の醸成を図る。
- ② 考え議論する道徳授業を通し、道徳的実践力の育成に努める。

(5) 特別活動

<学級活動>

- ・望ましい学級集団づくりを通して、よりよい人間関係を築く。（Q—Uの活用）
- ・一人ひとりが出番と居場所のある学級づくりを進める。
- ・自己の特性に気づかせ、意欲的な生活態度と将来の展望を育む。

<生徒会活動>

- ・学校生活の充実のため、自治的集团的活動を展開する。（委員会活動の推進）
- ・生徒の自主性、協調性を育成し、生徒相互の人間関係づくりを進める。
- ・校内、地域のボランティアを奨励し、母校、地域に貢献する態度を育てる。

<学校行事>

- ・学校生活をより豊かにする体験的活動を展開する。
- ・合唱活動を推進し、明るい声が響き合う学校づくりに努める。

(6) 保健・安全指導

- ① 心身の健全な発達を図り、衛生的な環境づくりに努める。
- ② 学校事故の防止、交通安全指導の徹底に努める。
- ③ 自他の命の大切さ、安全意識の向上について、計画的・系統的に指導し、自ら災害や危険から身を守る態度を養う。
- ④ ラジオ体操を奨め、体力づくり一校一実践を推進する。

(7) 給食指導

- ① 給食指導を通して、食に対する基本的知識を身につけさせる。
- ② 望ましい食事マナーを身につけさせる。（服装、配膳、片付け、あいさつ等）

(8) 情報教育

- ① 情報リテラシーを身につけさせる。
- ② ネット利用のマナーや危険性の理解、正しい判断、自身を律する行動など、情報モラル教育を推進し、安全に情報メディアを利活用できる力を育成する。

(9) 国際理解教育

- ① 諸外国の歴史や文化等について理解をすすめ、我国の文化や伝統を尊重する態度を養う。
- ② キオカック(アメリカ)、タラマラ(オーストラリア)との国際交流を進める。

(10) 環境教育

- ① 環境美化、環境保全、資源の有効利用などについて、主体的に考え行動できる資質を培う。（パンジー等の植栽、牛乳パックやアルミ缶の回収など体験活動を推進）

(11) 特別支援教育

- ① あすなろ、かしのき、さくらの特別支援学級担当者相互、他の職員、保護者との連携を進め、一人ひとりのニーズに応じた教育に努める。
- ② 自立心を養い、円滑な人間関係を築けるように育てる。

(12) 心を耕す読書教育

- ① 心を豊かにする読書指導を積極的に行う。（朝読書の効率的な活用）
- ② 授業で図書館の活用を進める。

(13) 保護者・地域との連携

- ① 学級・学年・学校だより等の発行、学校ホームページによる情報発信に努める。
- ② 保護者・地域の願いを把握し、地域に根ざした教育の推進を図る。
(終日学校開放日、PTAとの連携、地域人材の活用、地域貢献活動)

1 全体評価

- 「Ⅰ学校教育目標」の項目では、5項目のうち4項目でA評価が最頻値である。
 - 「Ⅱ学校運営」の項目では、8項目のうち5項目でA評価が最頻値である。
 - 「Ⅲ学習指導」の項目では、7項目のうち5項目でB評価が最頻値である。
 - 「Ⅳ生徒指導」の項目では、6項目のうち4項目でA評価が最頻値である。
 - 「Ⅴ地域との連携」の項目では、6項目のうち4項目でB評価が最頻値である。
 - 「Ⅵ学校の特色」の項目では、4項目のうち3項目でA評価が最頻値である。
 - 「Ⅶ創甲斐教育」の項目では、3項目ともにB評価が最頻値である。
- ・39の評価項目の内、39項目すべてにおいて、肯定的評価〔A（とてもそう思う）+B（そう思う）〕が80%を超えている。
 - ・最頻値については、全39項目中、Aが21項目であった。
 - ・否定的評価〔C（ややそう思わない）+D（そう思わない）〕の割合が比較的高かったもの（20%を超えたもの）は、「Ⅱ学校運営について」の中の「あなたは校務支援システムを十分活用できている」と「あなたは業務効率等の働き方改革を意識して職務にあたっている」「Ⅲ学習指導について」の中の「あなたはICTを効果的に活用した授業を行っている」「あなたの学校は計画的に道徳の時間が実施され心に響く授業が行われている」の4項目であった。
 - ・様々な感染症対策のため、各種行事や大会等の内容が変更され縮小を余儀なくされ、そのことが評価結果に反映されている。

2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

I 学校教育目標に関して・学校経営について

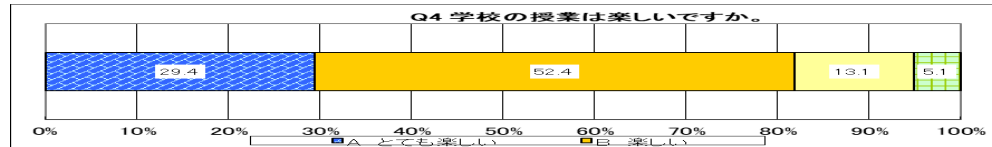
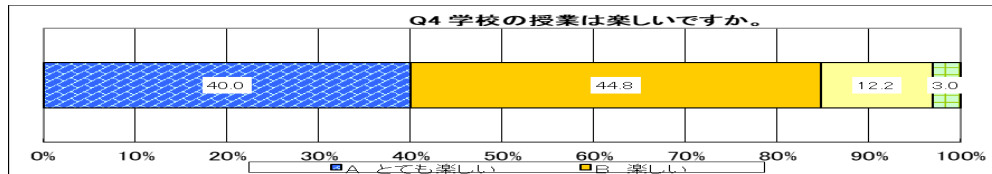
達成状況	<ul style="list-style-type: none">・全5項目、全てが肯定的評価80%以上となった。・A評価の割合が高かったものは、「学校教育目標が、学校経営方針を踏まえたものになっている」だった。学校経営方針を明確に示し教師の意思統一が図られていることがうかがえる。・Bの評価がAを上回った質問として「学校は、P→D→C→Aサイクルで、教育活動が取り組まれている。」がある。昨年度よりA34.3%→46.7%と向上している。
改善策	<ul style="list-style-type: none">・学校教育目標や学校経営方針に基づいた教育活動が展開されていると捉えることができる。今後も、生徒や地域の実態を正確に把握し、育成すべき資質能力を明確にした上で教育活動を行っていく必要がある。そのうえで、職員一人ひとりが各自の目標達成を意識し、P→D→C→Aサイクルを活用した教育実践を行っていききたい。・職場の福利厚生や健康管理への回答は昨年度からA50%→61.3%に向上している。しかし、平均退勤時間は夏場に19時をこえる職員が多く、職員の多忙化改善は喫緊の課題となっている。来年度は水曜5校時授業、定時退勤日の推進、行事準備の軽減、職員会議の時間削減、PTA活動の見直しなどに取り組む予定である。さらに、校務支援システムの勤務時間管理を活用し職員の意識改革を行い、多忙化改善計画を実効性のある取り組みにしていかなければならない。

II 学校運営について（保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・全8項目の内、6項目が肯定的評価80%以上となった。 ・A評価の割合が高かったものは「個人情報保護・情報セキュリティの観点から、諸表簿や文書、記憶媒体を適切に管理・活用している。」「あなたは、他の教職員と連携して協働体制で教育活動にあたっている。」「職務上『報告、連絡、相談、確認』を行っている。」である。 ・A評価が低かったものは、「校務支援システムを十分活用できている。」と「あなたは、業務の効率化等の働き方改革を意識して職務にあたっている。」であった。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策で職員の危機管理意識は高まっている。しかし、感染症対策のために集会が実施できなくなり、大規模な避難訓練の実施が少なくなってしまった。地震による避難訓練はシェイクアウト2回、校庭避難訓練1回、水害による垂直避難訓練1回、にとどまっている。学校が生徒たちの生命と健康を守る場所となるよう、今後も続く感染症対策はもちろん、危機管理マニュアルに基づいた防犯や防災、学校事故防止に全職員で取り組んでいきたい。 ・学校が最高のパフォーマンスを発揮するためには、職員が協働・連携していかななくてはならない。普段から生徒たちの事を話題にしながら、なんでも言い合える風通しの良い職員集団であるために、生徒に寄り添った内容を踏まえて中・長期の計画をたて、組織の共通認識のなかでできることから実践していくことが大切である。 ・支援を必要としている生徒は年々増加している。そして、特別支援教育の体制や機能に不足を感じている職員がいる。特に「支援を必要とする生徒への理解不足が原因で学校が組織的に動いていないのでは」と課題が提示されることもあった。情報共有の合理化のため会議・資料削減を実施してきたが、今後は、校内の担当職員の情報交換を定期的に行うことや確実な情報共有方法を模索し個々の生徒にきめ細かく対応していく必要がある。 ・校内研修への関わりについて、肯定的評価（A+B評価）は82.9%→93.4%に向上した。ICTの活用は喫緊の課題であり、遠隔授業や主体的・対話的で深い学びの実現のために積極的に研究に参加する職員が増加した。深い学びに向けたICT活用については、手探り状態であり、今後ICT活用の技術面ばかりでなく、求める資質の獲得のための研究を専門家の助言をいただきながら研究していく必要がある。 ・校務支援システムについては、本年度が2年目である。毎日の授業評価を積み上げた結果を成績として算出できる校務支援システムの機能は、日々の業務を改善することができるものである。徐々に慣れて活用している職員から全体に使用方法への理解が深まりつつあり、指導と評価の一体化も浸透している。校務支援システムの環境を整備している教務主任からの積極的な情報提供のもと、今後もストレスなく運用し更に業務を改善していく。 ・校務分掌についての肯定的評価（A+B評価）は昨年度97.2%→83.8%と減少した。更にそう思わないが15.2%→16.1%と増えている。本年度、急遽校務分掌を変更しなければならなかったこともあり負担増となっている。 来年度は、ベテラン職員の退職や新任職員の増加も予想される。負担の偏りが無いよう校務分掌の平準化に努めると同時に、「チーム学校」として職員相互の協働体制を構築し、多種多様な教育課題に対応していく必要がある。

Ⅲ 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）

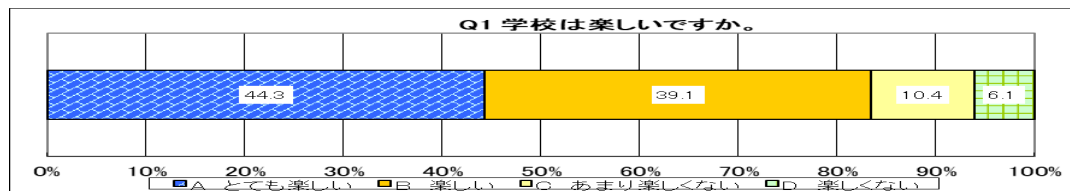
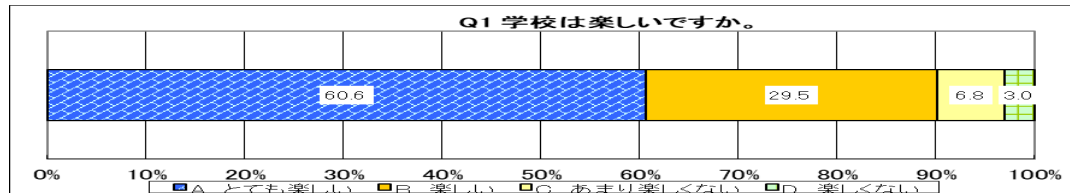
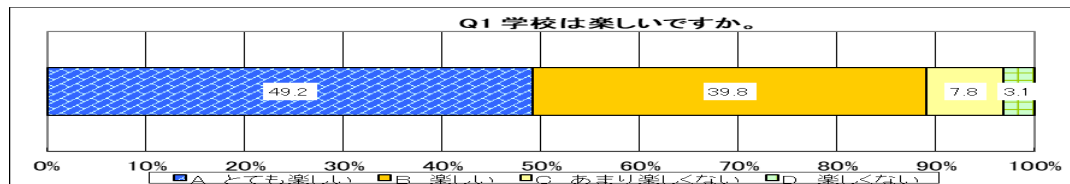
- ・肯定的評価（A+B）が80%以上となったのは7項目中5項目目であった。特に「あなたは児童生徒の学びの意欲を喚起する授業をおこなっている」が96.3%、「宿題や家庭学習に対する指導を行っている」が96%、「子に配慮した基礎・基本の定着をはかる授業をおこなっている」が100%となった。
- ・一方、否定的評価（C+D）は「道徳の時間が計画的に実施され、心に響く授業が行われている」において、そう思わないが6.4%から22.2%になった。

④ 学校の授業は楽しいですか…R2 84.8%→R3 81.8%



全校（上段 R2 下段 R3）

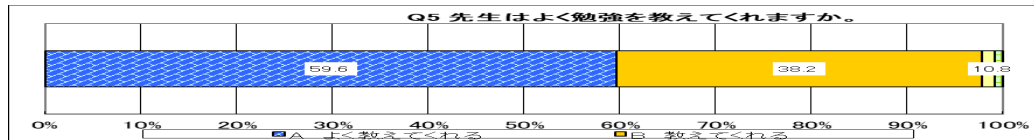
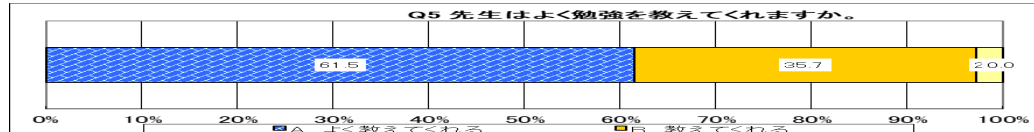
達成状況



R3（上段1年 中段2年 下段3年）

⑤ 先生はよく勉強を教えてくださいますか…

97.2%→97.8%



全校（上段 R2 下段 R3）

⑥ 国語の授業の内容はわかりますか…

91.1%→93%

⑦ 数学の授業の内容はわかりますか…

86.1%→88%

⑧ 外国語の授業の内容はわかりますか…79.8%→73.7%

⑨ 人前でしっかりと自分の意見を言うことができますか…69.7%→66.2%

⑩ 字をていねいに書くようにしていますか…81.3%→72.7%

改善策

- ・生徒アンケートの⑤「先生はよく勉強を教えてくださいますか」において、肯定評価が更に上昇した。⑥・⑦国語・数学の授業の内容についても肯定的評価が、それぞれ昨年度を上回る93%、88%となり生徒は理解が深まったと考えている。外国語は昨年度を下回り、創甲斐教育指標を越えることができなかった。特に肯定評価が1年80.2%、2年71.8%、3年68.7%と学年が上がるに従い肯定的評価が下がっている。
 - ・校内ではICTを用いた授業改善に取り組み、コロナ禍の対話的学びについて先生方は積極的に実践をすすめ研究している。本格的に動き出したICTを活用した学びにおいて生徒たちの理解度は深まりを見せる教科が増えつつあるが、授業が楽しいと考える生徒はわずかながら昨年度より減少した。生徒が主体的に学び、思考力・判断力・表現力を高める学習指導を今後もICTにこだわらず研修を重ね、職員同士がお互いの授業を見合い確認する取り組みや専門家の指導を仰ぐなど、積極的に研究する体制を構築し、生徒の確かな学力、生き抜く力を育成していきたい。
 - ・「家庭学習」についての教師の肯定評価は96.7%→96.0%と高水準を維持している。生徒の学校外目標学習時間の達成度は肯定評価が65.7%→65.9%と微増したものの低い状況を継続しており家庭学習は時間的には増加していない。
- 4時間以上の勉強以外のスマホやゲームに関しては19.6%→21.1%と増加し、スマホやゲームを持っていない生徒は全体の1.9%にすぎない。家庭学習の準備をする時間「スタンバイ学習」は2年目を迎える。また、コロナ禍の中で休校や分散登校等の対応により家庭での学習がより大切になっている。スマホやゲームに多くの時間を費やしてしまう生徒にとって、家庭学習と教科の授業がより有機的に結びつく取り組みを教師と家庭が連携し仕組みでいくことが重要である。

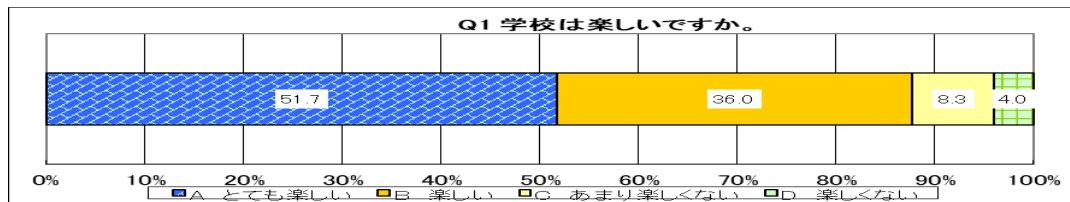
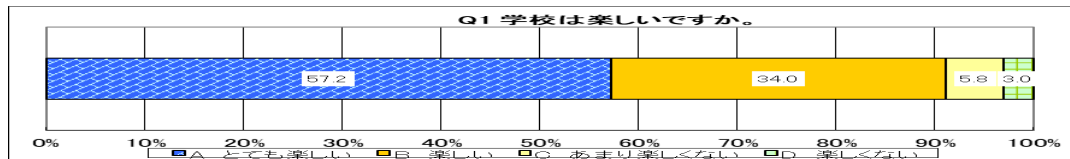
IV 生徒指導について（児童生徒用アンケートも含めて）

達成状況

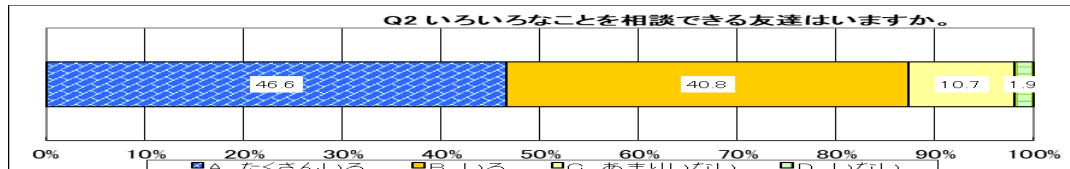
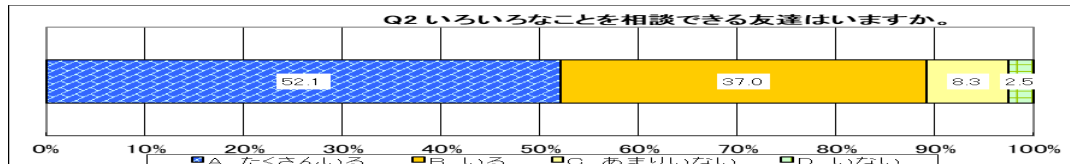
- ・全6項目全てが肯定的評価80%以上となり、3項目が100%であった。
- ・A評価の割合が高かったものは「あなたは児童生徒理解のためにコミュニケーションを図っている」と「あなたは、児童生徒の規範意識をはぐくむ指導に取り組んでいる。」と「あなたの学校では、一人ひとりを大切に、愛情と信頼に基づく生徒指導を行っている。」であった。また、肯定評価は「民主的で規律のある集団づくり」「規範意識を育む指導」「キャリア教育」「問題行動の早期発見、早期対応」に関しては100%となっている。

生徒アンケートより 肯定評価（A+B）

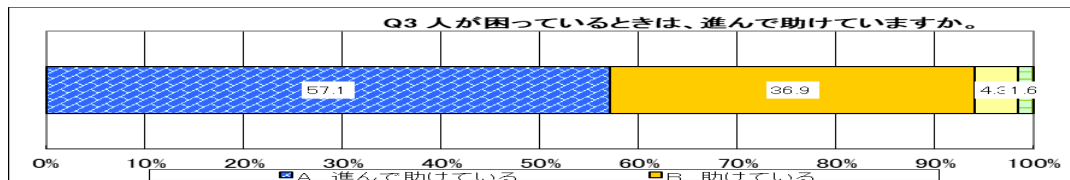
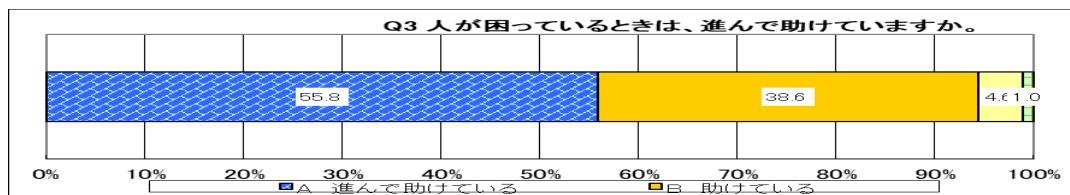
① 学校は楽しいですか…91.2%→88%



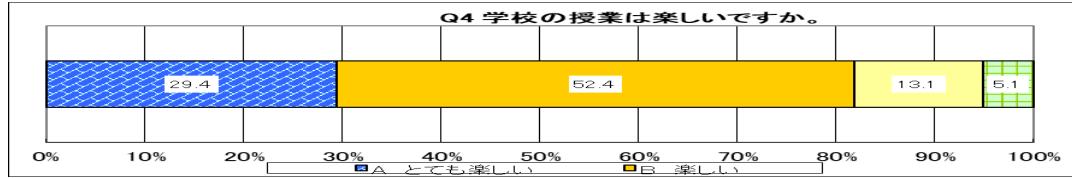
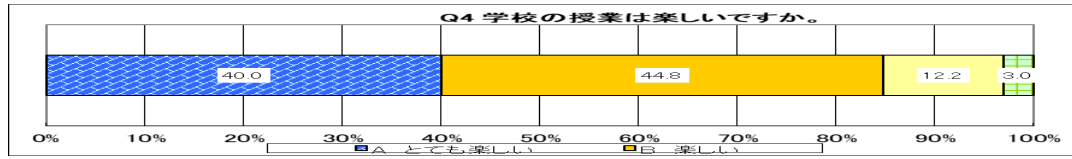
② いろいろなことを相談できる友達はいませんか…89.2%→87%



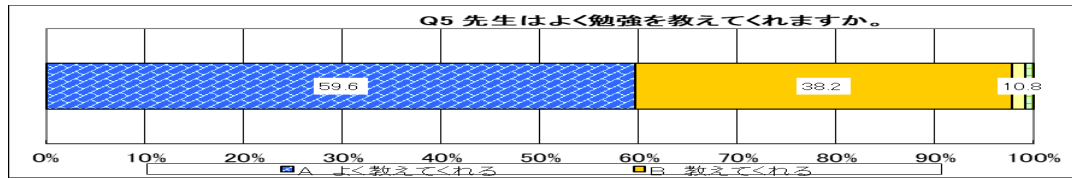
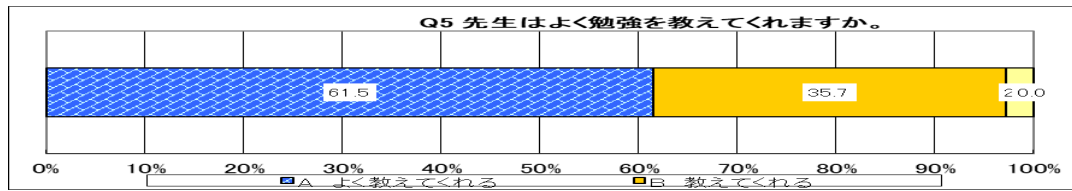
③ 人が困っているときは進んで助けていますか…94.4%→94%



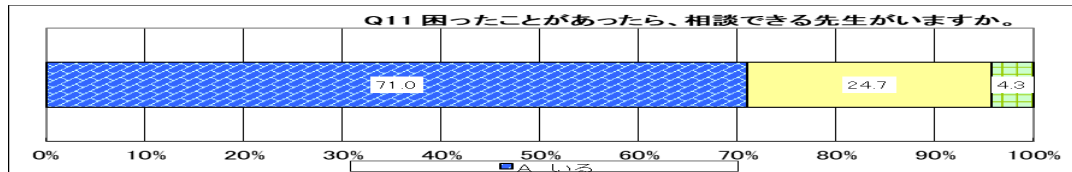
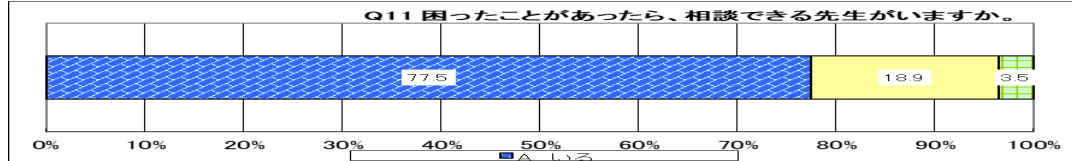
④学校の授業は楽しいですか…84.8%→82%



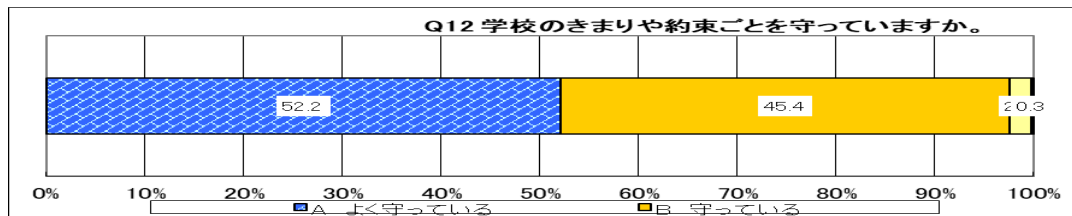
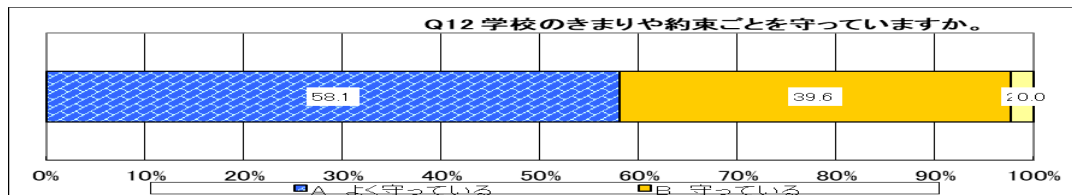
⑤先生はよく勉強を教えてくださいますか…97.2%→98%



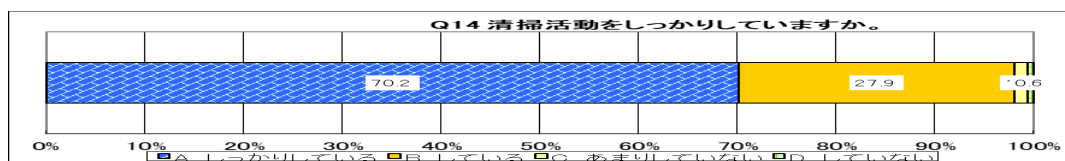
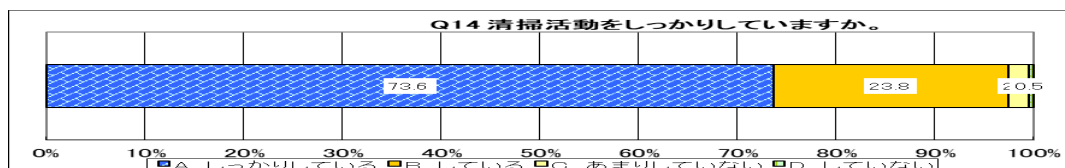
⑩困ったことがあったら相談できる先生がいますか…77.5%→71%



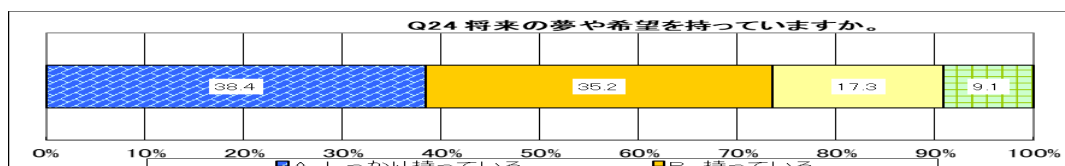
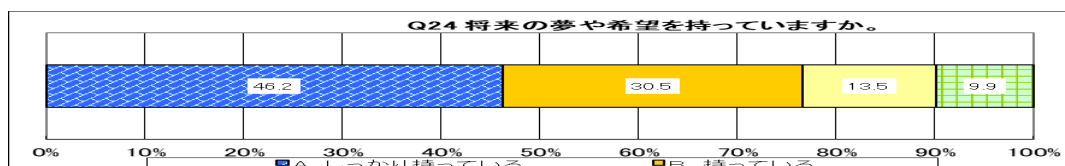
⑫学校のきまりや約束ごとを守っていますか…97.7%→98%



⑭清掃をしっかりとしていますか…97.4%→98%



⑮ 将来の夢や希望を持っていますか。…76.6%→74%



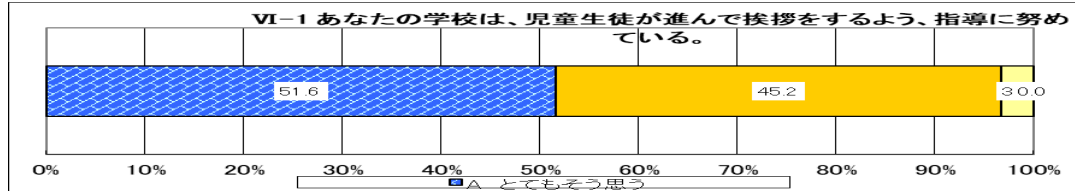
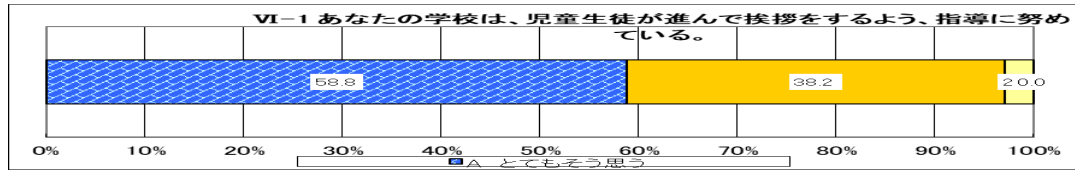
改善策

- ・生徒アンケートにおける肯定的評価（A+B）は①②③④⑩⑮において高評価が継続しているものの昨年度を下回った。特に生徒は教師が勉強をよく教えてくれるが、困った場合には相談しにくいと考えている生徒が増加している。そのような状況を踏まえ、本年度は二者懇談や三者懇談に加え、紙ベースのたつこの相談表以外にICTを使った調査やQU調査も行い生徒の気持ちに寄り添う指導の充実に努めている。
- ・コロナ禍において生徒の自主的な取り組みである学園祭や合唱の取り組みが削減された影響は生徒のアンケートに反映されはじめています。しかし、清掃をはじめ、自己の責任を丁寧に果たすことやルールや決まり事を丁寧に守る生徒として育てている竜王中生にとって、学校は楽しく、自分の夢を育てることができる場所であり、職員集団はプライドを持ちこれからも責任をもって臨まなければならない。
- ・「問題行動（いじめ・不登校）の早期発見・早期対応」について、職員の肯定的評価（A+B評価）は100%を維持している。いじめの早期発見・早期対応を徹底するため毎学期実施している「たつこの相談表（生徒いじめアンケート）」に加え本年度はICTによる月一回のアンケート調査もスタートした。また、職員会議での生徒情報分析結果も共有され竜王中は組織的な対応を継続的に行ってきた。
- ・本校の喫緊の課題として不登校対応がある。また、学期が進むに従い微増の状況にある。また、特別の支援が必要な生徒も年々増加している。担任が抱え込まないようにするためには綿密な情報共有を欠かすことができない。しかし、教員間の情報交換の不足の問題、保護者との意思疎通の難しさの問題から、問題を一人で抱えてしまわざるをえない教員もおり、チーム学校としての対応が望まれるところである。そのためにもコーディネーターを中心に効果的なケース会議を定期的に計画し、生徒一人一人の状況に応じた指導を考えていきたい。

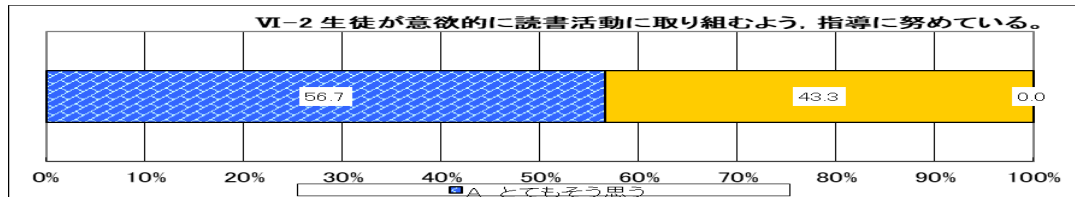
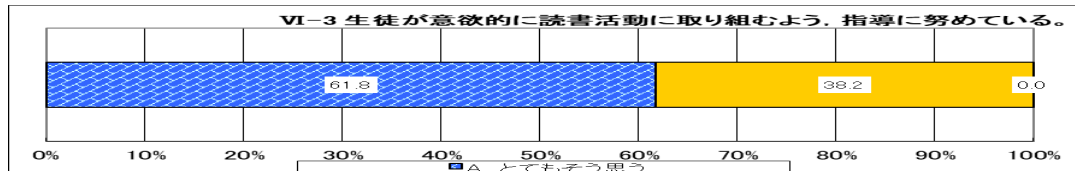
V 地域との連携について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・全6項目の肯定的評価が80%以上となり、90%以上は5項目となった。特にA評価が高かったのは「あなたの学校は、学校の教育活動について、たよりやホームページを通して保護者や地域に広報している。」だった。 ・一方でA評価が低かったのは、「あなたは、教育活動の中に地域人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている。」であった。 <p>※ 生徒アンケートより (A+B)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①…だれとでも挨拶をしていますか…91.9%→90.8% ② 今住んでいる地域の行事に参加していますか…70.3%→67.9% <p>※ 保護者アンケートより</p> <ul style="list-style-type: none"> ④ 学校(学年・学級)だより、ホームページなどから教育活動の様子を知ることができる…83.8%→81.6% ⑤学校は保護者、地域住民からの声に耳を傾けている。76.3%→69.4 ⑥授業参観や学校開放日などは生徒の様子を知る機会になっている。73.6%→75.9%
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度は、分散登校や感染症対策で、保護者が学校の様子を直接参観できる機会が少なくなってしまった。(実施できたのは学校開放1回、学園祭体育部門1回)学校からの情報提供が少ない事により、評価結果は厳しい内容となった。そのなかでも、学校・学年・学級だよりや学校ホームページの活用は例年以上に多数実施された。職員の自己評価でも地域の連携に関する項目の評価は高く非常事態を踏まえて情報提供を積極的に行ってきたことがわかる。一方学校はお願いする機会が多い割には、保護者の要望には応えきれていない実情も浮き彫りになっている。 今後は、コロナ禍の実情を踏まえた上で、学校行事や授業公開方法を見直し保護者に学校の状況を理解していただく取り組みを努力していかなければならない。 ・本年度は教育講演会で徳洲会病院からコロナ禍の生き方について学ぶ予定であったが感染拡大のため中止となった。しかし、生徒会が中心となり、徳洲会病院で働くスタッフの方々を応援する千羽鶴を作成した。小さな取り組みであるが地域や関連機関とつながりを深める実践となった。例年行われている、親子奉仕作業、学校開放、教育講演会、職業体験学習などの取り組みを大切にしていくなかで、できる取り組みを模索していきたい。 ・今後はチーム学校を実現するため、よりよい学校教育を通してよりよい社会をつくるという理念を学校と社会とが共有し、学校と地域保護者が一体となって生徒たちの成長を支えていく必要がある。①学校評議員会、学校委員会、学年学級懇談会の効果的活用、②ボランティア活動・地域貢献活動の推進、③地域人材の活用、④学区小学校との連携などを通して、学校・地域・保護者が連携協働する機会を増やし生徒が地域の実態に応じて取り組む場の設定や生き抜く力を獲得する学びを実現させていく。
VI 学校の特色に関して	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・4項目中すべてが肯定的評価80%以上となった。 挨拶 97.1%→96.8% 読書 100%→100% 学校行事 100%→100% 信頼関係 97.1%→100% ・最頻値がAとなったのは7項目、Bが1項目となった。 ・特にA評価の割合が高かったのは、「生徒が学校行事や校外学習に進んで取り組むよう、

指導に努めている(A70%)」であった。

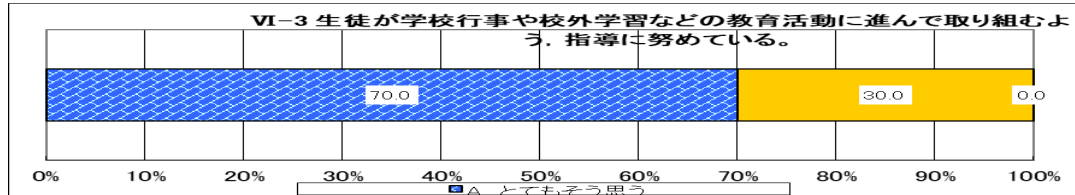
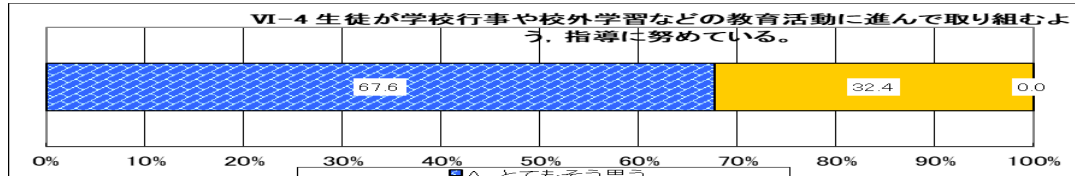
- ・ A評価は昨年度より下降傾向にある。



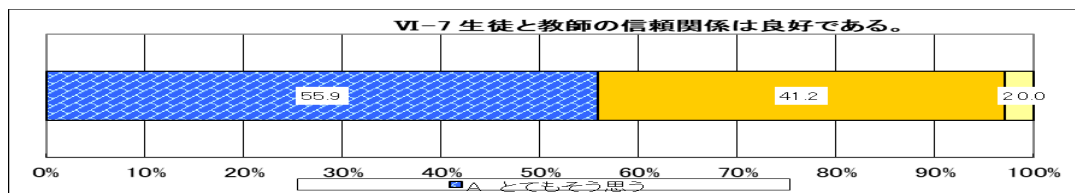
あいさつ 全校 (上段 R2 下段 R3)

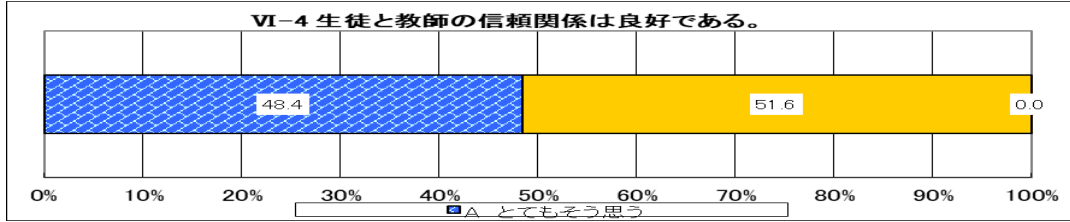


読書活動 全校 (上段 R2 下段 R3)



学校行事全校 (上段 R2 下段 R3)





信頼関係全校（上段 R2 下段 R3）

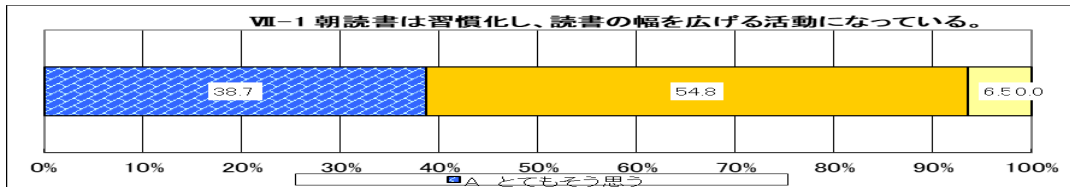
改善策

- ・本校は朝や夕のあいさつをはじめ、普段より生徒同士や生徒と教師が信頼関係を高めあいながら規則正しい学校生活に取り組んでいる。また、教師は生徒との信頼関係を高めるために、普段から生徒とのコミュニケーションをとること（面談、日記へのコメント、学習ノートへのコメント、アンケート）や、生徒が興味関心を高めることができる授業改善に全力で取り組んでいる。また、普段の取り組みを生かした行事を適切に配置し、生徒の個性や道徳性を高める取り組みを実践している。
- ・コロナ禍において、生徒がストレスを抱えている中でも正常な学校生活を送れていることは、生徒も教職員も保護者も頑張っている成果と考える。今後もさまざまな取り組みにより、この状態を維持していきたい。
- ・スタンバイ学習は2年目となり、授業と家庭学習の連携に取り組んでいる。近隣小学校でも家庭での自主学習が習慣化されてきており、小中連携を推進し今後も取り組んでいくことで「家庭学習の習慣化」をすすめ「学力向上」「家庭との連携・協働」を達成していきたい。授業での目標提示・振り返り・スタンバイ学習は表裏一体のものであり、「実施方法を生徒たちの発達段階に応じて変更していく必要もある」との声も上がっており、今後更に検討を行い継続して粘り強く取り組んでいきたい。
- ・教職員の登下校指導におけるあいさつや保護者や保護司の正門でのあいさつ活動、生徒会のあいさつへの取り組みや、小中連携でのあいさつ運動など様々な活動を行っているが、昨年度よりも生徒の A 評価は低くなっているのは残念である。今後も開かれた学校を目指し、継続して活動を進めていきたい。

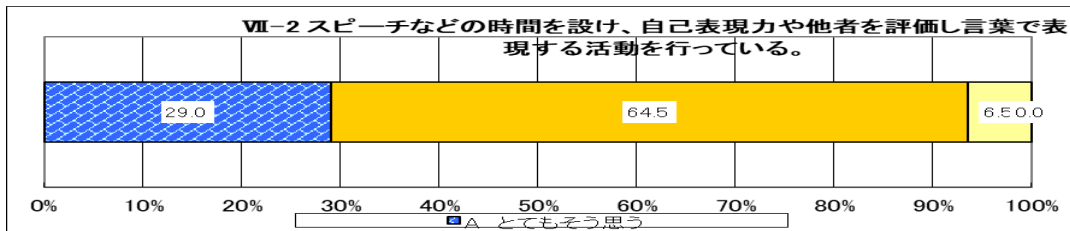
VII 創甲斐教育について

達成状況

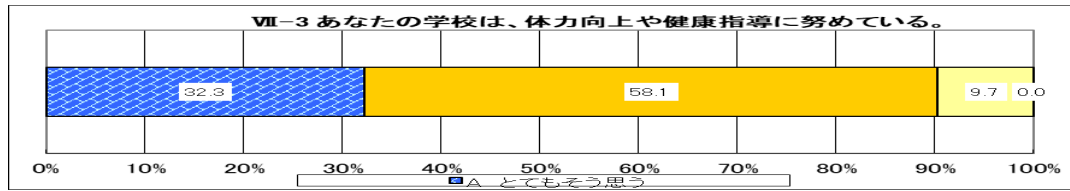
- ・本年度新設された創甲斐教育について、最頻値はすべてB評価であるが、A+Bの肯定評価は読書・言語活動93.5% スピーチ・自己表現93.5% 体力向上・健康指導90.4%であった。



R3 読書



R3 スピーチ 自己表現



R3 体力向上 健康指導

改善策

- ・主体的・対話的で深い学びを実現するために、話し合い活動を各教科取り入れているが、コロナ禍により対面での話し合いを控える場面も多々ある。ICTを使ったジャムボードの話し合いも、タイピングのスキルが低い生徒にとっては会話をする状況まで至っていない。
- ・すべての学力は文字や会話で表現することで、漠然とした内容が具体化されその個人の思いや考えになる。国語科だけでなく、すべての教科と機会において教師は言語活動や自己表現活動を強く意識していく必要がある。
- ・「体力向上」については、数値的には表れていないがコロナ禍で部活動の機会が減少し、大会が中止になるなど課題がある。体育の授業では授業開始時の自主的なランニングやストレッチ等が工夫され、部活動も内容を吟味し意識して取り組んでいる教員は多い。今後は、職員全員が運動に関する知識を高めることができるように、専門家の知識を研究会等で共有し学び合いながら生徒達に指導していきたい。

3 まとめ

〈成果〉

- ・アンケート結果は、肯定的な回答が多く、概ね満足できる結果である。しかし、昨年度から引き続き感染症対策に明け暮れ、様々な内容に制限が設けられることにより、生徒のためにやりたいと思うようにできない実情がある。そのことが職員を精神的に追い詰め肯定評価の減少を招いているとも考える。
- ・職員は、感染症対策のため活動内容が制限された状況下で「できること」を模索し、確実に実践してきた。特にICTの活用を推進した深い学びの実現については、校内研究を中心に、プレゼン、生徒の話し合いの場としての活用、遠隔授業、家庭学習への課題提示、情報収集（いじめアンケート）、生徒総会、学年集会、朝読書の読み聞かせなどさまざまな活動を実践した。また、今年度はコロナにより9月と1月・2月に2度にわたって分散登校が行われた。幸い保護者の協力や教師・生徒の努力により学習すべき内容は滞りなく終了させつつあることは大きな成果と考える。
- ・本校は生徒指導上の問題が以前に比べ少なくなった。これも、日頃から生徒に寄り添い、情報を広く求めながら取り組む本校職員の努力の成果であると考え。しかし、喫緊の課題として不登校の増加、いじめも依然として存在する。甲斐市教育委員会をはじめ、関係諸機関と今後も連携し危機管理意識をもって学校運営に取り組んでいく。
- ・保護司や生徒会によるあいさつ運動は年間を通して取り組まれた。また、生徒会による小中連携あいさつ運動も予定通り実施された。PTA総会や学校委員会、授業公開は回数が予定より削減されてしまったが目的の内容は実施できた。PTAからは何もできないのは申し訳ないと、今できるボランティアとしてフードバンクの取り組みを2度行っていただいた。この取り組みに自主的にとりくんできた保護者は総勢350人にのぼり大変心強い限りで

ある。また、1・2年の職業学習には地域人材の方がコロナ禍にも関わらず講演を実施していただいたことなど、今後も保護者や地域とのつながりを大切にしたい学校運営を実践していきたい。

- ・コロナ禍のなかで学園祭の演劇はDVDに収録した上で保護者に配布し、体育の部は人数制限を設けたものの保護者に参観していただく事ができた。また、新人戦壮行会をYouTubeで公開するなど新しい地域連携の実践が行われた。更に連携が不足しがちな点を補足するため、校長通信「信玄堤」や学級通信・学年通信、図書日より、保健日より定期的に配布され、ホームページと合わせて情報発信を心がけ、地域と共に学びを推進できたことは成果と考える。今後も継続していきたい。
- ・校内研において「主体的に学ぶ生徒の育成 タブレットを活用した授業実践（思考力・判断力・表現力を育む授業）」について取り組んだ。学力向上や家庭学習の定着を前年度の課題として引継ぐなか、ドラゴスタディやICTを活用したグループ討議を一人一実践として取り組んだ。コロナ禍ではあるがグループや小集団をうまく活用すること、説明・発表する機会を多く設ける事、学習プリントを工夫することなどに取り組み成果をあげたと考えている。家庭学習と授業の連携を深めるドラゴスタディについては学年毎の学習状況や発達段階を踏まえ再検討し、実施方法を再確認していく必要がある。
- ・本校の課題には、生徒たちの基本的な生活習慣に課題がある。家庭での生活の見直し(学習時間、ゲーム・スマートフォンの使用時間等)は、保護者と学校が連携する中で、生徒たちの意識を改革していく必要がある。コロナ禍で保護者と接する機会が少なくなっている状況があるが、三者懇談、授業参観等、コロナ対策を採りながらも学校に足を向けてもらう機会を設け、学校と保護者の意思の疎通を図りながら、目標を共有し、地域に生きる竜王中学校の生徒を育てていきたい。